

記念講演

共催者あいさつ

大仙市長 栗林次美



栗林大仙市長

この度は、第41回全史料協全国大会をここ大仙市で開催していただき、また、会員の皆様には遠路大仙市までおいでいただきまして誠にありがとうございます。関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、開催市として心から歓迎を申し上げます。またこれに併せ記念講演を企画致しましたところ、市内外からも多数のご参加をいただき御礼を申し上げます。開催市として、なぜここで開催したかという事を少し述べさせていただきたいと思えます。

平成の大合併を経て10年あまりが経過する中ですが、大仙市はもとより、我が国全体の人口が減少する時代となりました。これからの社会は成熟社会とも言われておりますが、また一方では限界集落などという言葉も

聞かれるようになりました。こうした時代であるからこそ、私たちは地域と人々の営みを後世にしっかり残さなければならない、そんな思いを込めて公文書館機能というものが基礎自治体である市町村にとっても無くてはならないものと考え、見よう見まねでアーカイブズ構想を策定いたしましたして、その導入を進めて参りました。

9月に刊行されました全史料協の会報に国立公文書館の加藤館長さんが寄稿されておりましたが、公文書館の機能として、国や自治体のガバナンスの検証、そして住民としてのアイデンティティの確認の2点を挙げておられました。基礎自治体の区域が拡大し、人口は減少する中、地域の未来を考え、真に成熟した社会になるには、住民が行政のこれまでの営みを検証できるようにするとともに、地域の文化や伝統を理解できるようにする事が肝要だと存じます。このため、公文書館機能が今まさに必要とされているというのが私達の結論でありました。時間はかかりましたけれども、旧小学校を改修しての公文書館設置に踏み切ったところでもあります。

この旧小学校は、平成13年に竣工した比較的新しい建物で、面積も校舎、体育館合わせて4,500平方メートル程ありますので、公文書館として十分機能するものと考えております。しかしながら、公文書館或いは公文書館機能というものが一般になじみが薄いことから、一体どういうものであるのか、また、なぜそれが必要なのかについて、まずは職員研修から始めまして、昨年度はシンポジウムを開催するなどしてその啓発に努めてきたところでもあります。

そうしたところ、全史料協の全国大会が秋田県で開催されると聞き及びまして、これは是非、当市において開催していただきたいということで、秋田県を通じて全史料協にお願いをいたしまして、今日の開催になった次第であります。

全国大会を開催していただくに当たりましては、市民の方々をはじめ、県内市町村の関係者も参加出来る企画をと考えまして、初代公文書管理担当大臣を務められました上川陽子衆議院議員に記念講演をお願いいたしました。上川先生におかれましては、公務ご多忙のところお越しいただきまして、本当にありがとうございます。上川先生は、福田康夫内閣におきまして、公文書管理法制定に向け担当大臣として実務を任せられ、全身全霊をもってご尽力なされたと伺っております。平成23

年度の全史料協群馬大会での福田康夫元総理大臣のご講演におきましても、上川先生は法制定に無くてはならない存在であったと紹介されております。

本日は、「公文書管理、そして公文書館への思いと期待」という演題でご講演をいただきますが、法制定に向けた当時のご労苦とともに、公文書管理や公文書館に対する思いや期待をお聞かせいただけるものと期待しております。上川先生をはじめ、本日ご参会の皆様におかれましては、この度の全国大会を契機に、大仙市のアーカイブズ事業に対し、今後とも様々なご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。この後、上川先生にはどうぞよろしくお願い申し上げます。